

Yuki Nemoto

INTERNATIONAL
GT OPEN

Rd.3 Hungaroring
2021.07.09~2021.07.11



BORDERLESS LLC.

#F INCELL Katsushika 8-29-14 Okudo, Katsushika-ku, Tokyo-to 124-0022 Japan

■ Introduction

7月10～12日、根本悠生が参戦する2021年シーズンの国際GTオープン第3戦が、ハンガリーの首都ブダペスト郊外にあるハンガロリンクで開催された。

同地はF1の開催地としても馴染みのサーキットではあるが、根本にとっては初めてのコースとなる。前戦を2位表彰台で終えた根本とバプティスト・ムーランの19号車ランボルギーニ・ウラカン GT3 Evo（ヴィンツェンツォ・ソスピリ・レーシング/VSR）にはレース1で5秒のハંデストップが追加されることとなった。公式予選Q2とレース2が行われる11日はウェットコンディションとなることが予報されたため、各車は10日に行われる公式予選Q1にエース/プロを起用。19号車も根本が公式予選Q1、そしてレース1の第1スティントを務める作戦をとることにした。



■ Free Practice

6車種14台のGT3マシン、ポルシェ991 GT3 カップカーが6台エントリーするなか、走り始めとなる7月9日の公式練習日はウェットコンディションとなった。

19号車のステアリングを握る根本とムーランは共にこの日がハンガロリンク初走行だが、FP1は2分2秒392を記録して全体3番手、雨足が弱まりつつあるなか行われたFP2では1分45秒871を記録して全体6番手につけた。

とはいえ、根本とムーランは完全なドライコンディションを1度も経験することなく、翌日のQ1を迎えることとなった。



■ Qualify1 : 4th

決勝レース1のスターティンググリッドを決する公式予選Q1は、気温25.6度、路面温度40.6度のドライコンディションのなか、10日午前に行われた。

プロアマクラスの47号車メルセデス AMG GT3のプロドライバー、ロリス・スピネリが1分42秒688を記録してポールポジションを獲得。前戦スパに続いてメルセデスが高いポテンシャルを見せるかたちとなった。

根本がアタッカーを務めた19号車ランボルギーニ・ウラカンGT3 Evoは、スピネリに続く2番手も現実的なペースではあったものの、2度目のアタックでトラフィックにハマってしまう。その中でも根本は1分43秒603を記録し、レース1の4番グリッドを獲得した。



■ Race1 : 2nd

10日午後、70分間の決勝レース1は快晴の下、気温30.9度、路面温度50.2度というコンディションの中、スタートを迎えた。

4番グリッドスタートの根本は、1コーナーのアウト側から3番グリッドスタートの77号車ポルシェ、アンディ・ソウセックに並びかけると、2コーナーでオーバーテイクに成功し、3番手に浮上する。

首位を守る47号車メルセデスのスピネッリが1分44秒台というハイペースを刻み、2番手に続くVSRの63号車ランボルギーニ・ウラカンGT3 Evoのフレデリック・シャンドルフを1周1秒近く引き離す。63号車シャンドルフ、19号車根本はともに1分45秒台で周回を重ね、VSRの2台がランデブー走行で2-3をキープする。

トップの47号車メルセデスは2番手に20秒近いギャップを築き、23目終わりにピットイン。ここでジェントルマンドライバーのジャンルカ・ギラウディにドライバーチェンジを行うが、リスタート直後にピットレーンでカップカーと接触。このアクシデントは47号車のアンセーフリリースと判定され、47号車に対し5秒のペナルティが課せられる。

このアクシデントにより、首位に浮上した63号車、2番手の19号車のVSRのランボルギーニ・ウラカン2台がレースを支配。一時的にペースアップした19号車ムーランが63号車ミケーレ・ベレッタの背後に急接近する場面も見られたが、順位は変わらず、VSR勢が今季3度目のワンツー・フィニッシュを決めた。

2レース連続でワンツー・フィニッシュを決めたことにより、VSRの63号車は20秒、19号車は10秒のハンデストップが課せられる厳しい状況でレース2を迎えることとなった。



■ Qualify2 : 12th

決勝レース2のスターティンググリッドを決する公式予選Q2は、レース1翌日の11日午前に、気温25.7度、路面温度35.3度というのなか行われた。

1分42秒703を記録してポールポジションを手にしたのは元F1ドライバー、クリスチャン・クリエンの乗る88号車マクラーレン720S GT3。

19号車ランボルギーニ・ウラカンGT3 Evoは、根本のパートナー、ムーランがアタックを担当。ベストタイムは1分44秒601に終わり、20台中12番手でセッションを終えることとなった。

■ Race2 : 10th

11日午後、60分間の決勝レース2は気温23.1度、路面温度33.9度というコンディションの中、スタートを迎えた。

レース中に雨が降ることも予報されたが、スタート時点では完全なドライコンディションということもあり、全車がドライタイヤでスタート。19号車ムーランはオープニングラップで2台をかわし10番手にポジションを上げるも、そこからは均衡状態が続く。

全車がドライバー交代を済ませた残り23分ごろ、激しい雨がハンガロリンクに降り注ぎ始めると、2番手スタートからレースをリードしていた777号車メルセデスがスピン。

777号車メルセデス、そして2番手に続く88号車マクラーレンはたまたまらずピットイン。19号車根本も即座にピットへ入り、ウェットタイヤにチェンジする。コース上では複数台がスピンを喫したこともあり、残り20分のところでセーフティカーが導入される。

続々と各車がピットに入り、レインタイヤに交換するなか、47号車メルセデス、63号車ランボルギーニ、7号車マクラーレンの3台はドライタイヤのままステイを選択。セーフティカーはレース終了まで約8分というところまで導入されることとなったため、結果的にはドライタイヤのままステイした3台の作戦が当たったかたちとなる。

リスタート時には雨足も上がり、路面も乾き始めたため、首位47号車を筆頭に2番手63号車、3番手7号車のドライタイヤ勢はウェットタイヤを履いた4番手以下に圧倒的なリードを築くとそのままチェッカー。一方、根本は難しいコンディションかつ、オーバーテイクが難しいハンガロリンクにおいてライバル勢を続々とオーバーテイクし、6番手までポジションを上げてチェッカーを受けた。

しかし、2位の63号車、6位の19号車のVSR勢2台に対し、決勝結果に10秒加算のペナルティが課せられることが発表された。VSRチームが最低ピットストップタイムを表示させる車内タイマーの設定値を誤ったため、2台は規定より5秒早くコース復帰していたのだ。

このペナルティにより、63号車は3位に、19号車は10位に順位を落とすという結果となった。

次戦となる第4戦は7月23～25日に、VSRのファクトリーのあるフォルリから約40kmとほど近い、イタリアのイモラ・サーキット（アウトドロモ・インテルナツィオナーレ・エンツォ・エ・ディーノ・フェラーリ）で開催される。



■ 根本悠生 コメント

「良い面も悪い面もあった不安定な週末となってしまいました。自分が担当したQ1では、最初のアタックは上手くまとまったものの、2回目のアタックでピットアウトした際の位置が悪く、想定していたアタックをすることが出来ずに4番手。ペース的には、2番手まで見ていただけてに悔しい予選となりました」

「土曜日のレース1は非常に良い戦いができました。スタートではブレーキングでアウトサイドからポルシェをオーバーテイク、その後もクルマと相談しながら63号車と共に追いつける展開へ持ち込むことができました。チームメイトもこの決勝が初めてのドライ走行にも関わらず一周目から力強いペースを見せてくれたことで、チームとして今季3回目の1-2フィニッシュを飾ることができました」

「一転して日曜日は大苦戦。チームメイトが担当した予選で12位に沈んでしまったことで、レースでも厳しい展開となりました。僕が担当した後半スティントでは追いつけを開始し、突然の雨やセーフティーカーなど荒れた展開も味方につけ6番手まで順位を上げることができました」

「しかし、最低ピットストップ時間を確認するタイマーに、チームが誤った数値を設定したため、規定時間よりも短いピットストップとなってしまい、63号車とともにレース後にタイムペナルティを受け、僕たちの19号車は最終的に10位となりました」

「レース2は珍しくチームとしてのミスもあり、挽回叶わずという悔しいレースとなりました。しかし週末を通して主にセットアップ面で大きな発見があり、全体としては前進することができたのではないかと思います。折り返し戦となる第4戦イモラに向けて今一度チームとして更に強くなれるよう気を引き締めて挑みます。今大会も沢山の応援をありがとうございました」

Sponsor/Partner

oppo



ThunderCOMMA



本件に関するお問い合わせは
合同会社ボーダーレス
info@borderless-motorsports.comまで

